ます 校訓	友　勤　自 愛　勉　治	令和8年度 **東中だより** 第12号	発行日	令和8年10月2日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長　前田 徳三

【読書で育つ、生きる力】

秋は、心と身体を整え、新しいことに挑戦するのにふさわしい季節です。子どもたちは日々の学習に加えて、学習発表会や体育大会などの学校行事に全力で取り組み、大きく成長する時期です。その一方で、じっくりと本に親しみ、自分自身と向き合う時間も大切にしてもらいたいです。読む力は、さまざまな学びを支える大切な基礎となります。そこで、今回は、「読書の秋」にちなんで、本を読むことの素晴らしさについてお伝えします。

本を読むことで言葉の力が育ちます。本の中には、普段の会話ではあまり使わない言葉や表現が数多く登場します。その言葉に出会うたびに語彙が増え、自分の思いや考えをより豊かに表現できるようになります。また、相手の話や文章を深く理解する力も育まれます。



さらに、読書は想像力を育てます。物語を読むとき、登場人物の表情や風景、場面の様子を自分の頭の中で思い描きます。同じ本を読んでも心に描く世界は人それぞれに違いがあります。このように、自分の力で物語の世界を創り上げる経験が豊かな想像力につながります。

また、読書は人の気持ちを考える力も育てます。登場人物の喜びや悲しみ、悩みや葛藤に触れることで、「自分だったらどうするだろう」「なぜそのような行動をしたのだろう」と考えるようになります。多様な価値観や生き方に出会うことは、他者を理解し、思いやる心を育むことにもつながります。

人は誰しも、「どのように生きればよいのだろう」と悩みながら成長していきます。そのような時、自分より先に人生を歩んだ人々の経験や考え方に触れられることが読書の大きな魅力です。本には、多くの人の人生観や知恵が詰まっています。読書は、先人たちとの対話とも言えます。

ＡＩの普及により、私たちは短時間で多くの情報を得られるようになりました。しかし、知識を自分のものにし、考えを深め、人間としての土台を築くためには、自ら時間をかけて読み、考える経験が欠かせません。読書によって得た知識は点として蓄えられ、その点と点が結びつくことで理解へと深まり、やがて新しい考えを生み出す力となります。

そして、自分とは異なる世界や多様な価値観に出会わせてくれます。中学生の時期に出会った一冊の本が、その後の人生に大きな影響を与えることも少なくありません。

幕末の思想家である吉田松陰は、「本を読み、そこに書かれたことを実際に行動に移せば、人生は限りなく豊かなものになる」と説きました。読書とは、単に知識を得るためだけのものではなく、自分自身の生き方を考え、未来を切り拓くための力を養う営みでもあります。

「忙しくて本を読む時間がない」という声も聞かれます。しかし、一日わずか１５分でも構いません。毎日の生活の中に読書の時間を取り入れることで、心を整え、知識や感性を磨くことができます。読書は人の心を育て、人生を豊かにします。子どもたちが読書の楽しさに触れ、多様な世界や価値観と出会いながら、自ら考え、自ら学び続ける力を身に付けてほしいと願っています。ぜひご家庭でも、この秋、「読書の時間」を大切にしていただければ幸いです。

【まず、一歩を踏み出そう】

生徒会認証式で、東中学校をもっとすてきな学校にするために「ＰＬＵＳ」の精神を大切にしてほしいという話をしました。その中の「Ｐ」は、Positive（前向きな考え方）です。

こんな経験はありませんか。「勉強しなければいけない。でも、やる気が出ない」「頑張りたいけれど、なかなか行動に移せない」。それは誰にでもあります。そんなときは、やる気が出るのを待つのではなく、まず少しだけ始めてみることが大切です。「２時間勉強する」と考えると大変でも、「教科書を開こう」「一問だけ解こう」なら始められるかもしれません。やってみると「もう少しやってみよう」「昨日より分かるようになった」と、少しずつやる気が生まれてきます。



つまり、「やる気があるから行動する」のではなく、「行動することで、やる気が生まれる」ことがあります。たとえ５分でも、たとえ一問でもかまいません。その小さな積み重ねが「習慣」となり、やがて自分の力になります。

そして、うまくいかないときも、決して「自分には無理だ」と決めつけないでください。失敗したら、「ダメだった」で終わらず、「では、次はどうする？」と考えてみる。うまくいったら、「なぜ、うまくいったのだろう？」と振り返ってみる。その繰り返しが、自分自身を成長させてくれます。

もちろん、自分一人で頑張らなくてもいいです。先生や家族、友だちが皆さんの「やる気の火」を直接つけることはできなくても、火がつくきっかけをつくり、その小さな炎を一緒に大きくすることはできます。困ったときには、誰かを頼ってください。そして、友だちが頑張っていたら、「頑張っているね」「自分も頑張ろうと思えた。ありがとう」と声をかけてください。認めてもらえること、応援してもらえることは、次の一歩を踏み出す大きな力になります。

これも「ＰＬＵＳ」の精神だと思います。「Positive」前向きな気持ちで、まずは一歩を踏み出す。「Love」互いを大切にし、支え合う。「Unique」一人ひとりの個性や良さを認め合う。そして、その一歩の先にたくさんのSmile（笑顔）が生まれます。

大きな一歩でなくてもかまいません。「まずは５分」「まずは一問だけ」から始め、今日、自分にできる小さな一歩を踏み出していきましょう。その一歩一歩が、皆さんの未来をつくり、そして、笑顔あふれる「最幸」の東中学校につながっていくことを願っています。